

令和元年度第6回「千歳市子ども・子育て会議」会議録

日 時	令和2年1月31日（金）10時00分～12時30分	
会 場	市役所第2庁舎 会議室2	
出 席 者	委員 ※50音順	市（事務局）
	委 員 吾田 富士子	こども福祉部長 上野 美晴
	委 員 石岡 くに子	こども福祉部次長 島津 一久
	委 員 磯貝 孝	こども政策課長 久保田 健司
	委 員 板垣 愛	こども政策係長 井鳥 秀司
	委 員 大関 恵子	こども政策係主任 小島 優子
	委 員 小川 真智子	こども政策係主任 加藤 将規
	委 員 斉藤 創	こども政策係主事 鈴木 貴也
	委 員 三溝 昌宏	保育係長 阿部 さやか
	委 員 西 博康	給付係長 石井 彰子
	委 員 松澤 菜緒	市（関係部署）
委 員 村田 勢津子	こども家庭課長 藤木 健一郎	
	子育て総合支援センター長	
	磯部 由起子	
	こども療育課長 松田 和也	
	保健福祉部次長（保健担当）兼母子保健課長	
	山谷 奈奈子	
	主幹（産前産後ケア担当）	
	渡辺 幸子	
	教育委員会企画総務課長	
	伊藤 樹美	
事 務 局	こども福祉部こども政策課	
会議の公開	公開	
傍 聴 者 数	1人（千歳民報記者）	

1 開会

委員数 16 人中 11 名の出席につき、会議が定足数（委員の半数以上の出席）を満たしていることを確認。

2 議事等

(1) 第2期千歳市子ども・子育て支援事業計画について

【こども政策課長から、資料1-1、1-2、1-3について説明】

(会長)

パブリックコメントの意見は大事な視点です。ご意見をうかがいますが、まず最初に私から、このパブリックコメント及び子ども・子育て会議委員からの意見等に対する回答は公表されますか。

(こども政策課長)

パブリックコメント及び回答につきましては、市のホームページ等で、公表をいたします。いただきました子ども・子育て会議委員のみなさまからの意見に関しましては、公表することは考えておりませんので、いただきました意見を今後参考とさせていただきながら事業を進めていきたいと考えております。

(会長)

議事録には載るのでしょうか。

(こども政策課長)

議事録については「資料にて説明」とすると考えております。

(会長)

公表した方が良いのではないのでしょうか。非常に具体的で中身があって「私たちも会議に参加している。」とよく伝わる内容になっていると思います。

(こども福祉部長)

この会議の皆さんの意見とパブリックコメントの内容は、位置づけが違います。もしかすると、第三者としては、パブリックコメントと委員の皆さまからの意見をともにホームページへ掲載することで、同じものと捉えられてしまう可能性があります。そのため、本会議の資料として掲載を予定しています。

(会長)

資料にある回答が「実施済み」と切られているのですが、「実施済み」とすると、もうやっていますという印象が強くなってしまいます。ここから1年後、本当にどうだったのかを明らかにしていかなければなりません。そのためには、これで終わりですとなると意味がなくなります。だから、議事録を残すなどして、何らかの形で明らかにしておく責任があるのではないのでしょうか。中には大変貴重なご意見もあります。それを何らかの形で公表すべきというのが私の意見です。

(こども政策課長)

資料としてお配りしたものととしてホームページに記載する予定です。

(こども福祉部長)

「実施済み」ではなくて「計画に盛り込み済み」というのはどうでしょうか。「実施済み」とは、事業をやったというのではなく計画に盛り込み済みという趣旨での表記です。

(会長)

「実施済み」であると、ご意見に対して突き返して終了しているような印象を受けます。これらは貴重なご意見なので生かしてほしいです。

(こども福祉部長)

「実施済み」という文言が良くなかったと思います。実施済みというのは、すでに取り組みとして計画に盛り込んでおりますという意味であって、もう実施しました、もうやらない、という意味ではありません。

(会長)

貴重なご意見をいただいたことに対する姿勢としては、言葉足らずな部分があると感じます。

(こども福祉部長)

計画なので、計画に盛り込んでいますということを示して、終わりというわけではありません。既存の事業をさらに良く、充実させていくということを行って行っています。

(会長)

その余地を残してほしいです。文言としてはあるけれど具体的なことをおっしゃっていただきたいと思うのですが、これだと余地がないように感じます。

意見者が言おうとしていることに耳を傾けると、本当に良い方向へ行けると考えています。

(A委員)

ご意見に対して行政は実施しているのですが、表に出てきていないのではないのでしょうか。議会では、そのような質問について「以前やりました。」と、捉えられかねません。

(B委員)

会長の意見に共感です。意見をして、もう回答案ができていますのでこのまま通したいという方向性かという印象を受けました。しかし、私たちはここで意見を言えなかったらどこで言うことができるのだろうと思って書かせていただいたのですが、「実施済み」となっています。「実施済み」としてしまうと、つじつま合わせのように感じます。

(会長)

今すぐこうしますということをお求めているわけではないですよ。他に皆さんからご意見ありますでしょうか。

(こども福祉部長)

前回(第5回千歳市子ども・子育て会議)は書面会議として文書でいただいて文書で回答という形にしましたので、その意見の背景となる考え方や何が趣旨としてあるのか分からない活字で判断をして活字で回答いたしました。書面会議の性質ですが、皆さんのご意見は、参考にさせていただいている部分が多くあります。計画は根幹ですが、ご意見についてはいろいろアレンジして抽出するということを行っています。「実施済み」とは、切り捨てではなくて参考にしております。計画に載せていますという意味での分類です。これ

から事業を進める中で参考にするものとして、事業を行っていくということです。文書で回答ということになると、若干言葉足らずになってしまうのですが、皆さんのご意見に留意しておりますので、何ともならないという意味ではないです。

(会長)

これは、議事録として残しておくということではありますが、文章では確かに背景は見えにくいですが、こんな意見があったんだなということを考えながら次に進んでいくことが必要なのではないかと思います。お金や時間もみなさんにかかっていますので、大切なのではないかなと思います。

そして、私は保育の質の調査をしてほしいと言っていて、この会議でも言い続けてきました。それを、提示してもらいたいです。質を明らかにして、会議資料にさせていただかなければいけないと思います。何らかの形でこれを実施していく、計画に盛り込み済みということをお伝えたいということですね。

(こども政策課長)

計画ですので、そういう部分というのは、皆さんのいただいたご意見を参考にさせていただきながら、どういう策が良いのかというのは考えております。計画の表記も、多くは今後取り組みますので、さらにより良い内容にするために具体的に考えていきます。

(会長)

そうですね。具体的なものにして取り組んでいくということですね。皆さん意見はないですか。これを踏まえて、パブリックコメントも終わったので、いつから開始の計画でしたか。

(こども政策課長)

3月策定いたしましたして4月からの計画です。

(会長)

この計画に、ある意味皆さんは責任を持つ立場です。大丈夫でしょうか。

(C委員)

もう少し資料を読み込んで、今日の前に、前々回ぐらいからもっと意見したらよかつたかなと反省があります。ただ、自分たちの立ち位置を、最初に人選された際に説明していただければ、今日はもっとスムーズになったのではないかと思います。今からできるのは未就学児のアンケートの中身によって質を測るということだと思います。5年に1度しかやらないということですが、どこかで関わって力を入れればアンケート結果として出て、僕らも参加した実感というのが出るのではないかなというのが、去年の子育てママ応援会議で感じました。そういう部分を1番最初に関わったときにもう一步説明していただければ、発想が違ったかなと思いました。

(会長)

反省ですね。私は最初から関わっていますから、初めての方たちは、自分たちの立ち位置が分からないのが当たり前かなと思います。これを推進しないのではなく、推進するよ

り良い場なのです。

(D委員)

委員からの意見で、こんなに考えていらっしゃるんだと感じるものでした。資料1-3委員からの意見8ページ10番の「計画全体をとおして」というご意見の中で、前から私はこの会議で、働いていない子育てするお母さんの立ち位置で考えていることが多いです。この方がおっしゃりたいことは、ここの回答では違うのかなと思いました。やはり、この孤独や居場所の不足ということは、「転入親子ウェルカム交流ツアー」や「ママサポート」(訪問型子育て支援)に手が届かない方たちにどうやって届けるかということが大きく関わってくると思います。ここの「実施済み」ということですが、子育て総合支援センターも含めて、参加できない方にどうやって施策を届けていくかというのは、どうやって孤独を解消していかうかをもう少し探る必要がある意見であった気がします。本当にできることを模索しなくては、本当に苦しくなって悲劇につながっていくということがあり得るので、私たち子育て支援に関わる者としては、幼い子を育てる若いお母さんたちにとってとても大きな問題なのかなと思いました。

(こども福祉部次長)

決してお仕事されていない方に対しての政策を考えていないということではなくて、命題として私たちは常に承知していて、様々な部門と連携し、様々な対策を考えています。そして、この回答は文章なので、現状としてこんなこともあんなこともやっているんですと書いています。ただ、このようなご意見があったことは承知していますし、もっと出来れば良いねと私たちもいつも模索していることです。実施済みだから終わりということではなく、こういう意見があるということを私たちとしては意識していかなければならないのだと考えております。

(会長)

どうしても市の回答を見ますと、一般市民から考えると「実施済み」は終わりですかと思ってしまう。

(こども福祉部次長)

「実施済み」という表現が誤解を招いたのかもしれませんが。

(会長)

一般市民の感覚と、役所としてご理解いただきたいという部分もあると思いますので、お互い歩み寄りが必要です。

(こども福祉部次長)

皆さんの気持ちも良く分かります。

(B委員)

行政作成の施策の中で、すくい上げられなかったことに関して、今後また市民だけで考えていても、行政で決まった中でしかできない部分が必ず出てくるので、どうやって市民に寄り添った施策を作れるのかという部分をくみ取ったりすくい上げたりする場を今後ど

うやって作っていくのかというのが気になっています。この会議で言えないのであれば、自分たち市民が独自に集まって会議をやろうという様にしないといけないのではないのかと思うし、行政は行政でもっと民間意見をすくい上げられる場を作るとか、時間を費やすとかする工夫を積極的にしないと、ずっと同じような感じが続いてしまうと思います。

(会長)

市民からそういう動きが出てくると、子育てを官民一体で考えているまちとして良いまちになまっていくのかなと思います。現在この千歳市は、行政が主導で引っ張っていつてくれているんです。他市町村に比べたら、本当に素晴らしいところです。本物の中身を問われているのかなって思いますので、みんなで意見を言って活発にしていきましょう。

※今回の会議における【資料1-3 委員からの意見等】については、議会において配布した公開資料であることから、市ホームページに資料として掲載いたします。

また、資料中の回答表現として「実施済み」としていたものは、すでに実施しているため解決済みというものではなく、支援事業計画へ盛り込み済みということであり、誤解を招きかねないことから、「計画に盛り込み済み」という記載へ修正いたします。

(2) 令和2年度 教育・保育施設等の利用定員について

教育・保育給付を行うにあたり、市町村は就学前の子どもの認定区分毎の利用定員を定める必要があり、あらかじめ地方版子ども子育て会議等の意見を聞かなければならないとされている。また、子ども・子育て会議条例施行規則第2条第4号の規定のため、特別の利害関係を有する委員（特定教育・保育施設の運営にかかわる委員）4名は、審議の間、退席。

【こども政策課長から、配布した資料2-1（非公開）、2-3、3（非公開）について説明】

特別の利害関係を有する委員4名着席。

(3) 保育定員の拡大について

【こども政策課長から、配布資料2-2について説明】

(4) 千歳市児童発達支援センターの設置について

【こども療育課長から、配布した資料4について説明】

(会長)

ありがとうございました。これまでの通園センターから国の施設として代わるということでした。これについて意見はありませんか。

(E委員)

形がしっかり出来上がっているのですごく期待したいです。その中で、さきほどの話し合いの中でも出ていたのですが、形が出来上がっていくと中のスキームも整ってということとすると、中の部分の責任も重大だろうと思います。イメージ図でいきますと、今ま

で少しずつ他機関と関わっていた部分が、もっとしっかり関わるよという相関的なポジションになりますから、周りの方たちもそうですし、利用する保護者の方々も子どもたちと寄り添いあえるような、そんな施設を目指しているかなと思い期待しています。

(会長)

児童発達支援センターという児童しか表に出てこないのですが、この図の中は、家族児童が中心になっていて、児童には必ず保護者家族がいて、そのことを視野に入れているという施策になっていますね。子どもじゃないのだけれど親の部分もきっと補っていけるものになっていくのではないかと期待しています。

関係機関の方々が周知していただけるというのは大丈夫ですか。

(こども療育課長)

先に事業者と保護者の方々には事前に説明をさせていただいて、いろいろな利点を踏まえまして計画推進してまいりますので、その際には、いろいろとお話を聞かせていただいております。

(会長)

児童発達支援センターになると、1年間の業績とか出されますか？1年間過ぎたら今回の事業報告とかですね。

(こども療育課長)

毎年アンケート調査を行うなど、評価を含めましてお話を聞いております。

(E委員)

ひとつ以前から気になっているのですが、市民病院を含めた精神科の診療回数が少ないのですが、ほとんどの方が札幌市内とか苫小牧方面にお子様を受診されるというような実態だし、多分これから特化された専門的な医療機関が千歳市内に待機するというのは難しいのかなと思った場合に、他の機関と連携するのも良いのではないかと考えています。紹介状などが今までの例かなと思うのですが、医療機関を決められる最初の段階ですごく不安な皆さんに対して、ますます専門的なケアを行うことが必要だと思うのですが、その際の具体策はありますか。

(こども療育課長)

医療的なケアにつきまして、札幌などには専門職がいらっしゃるのですが、市内には児童発達専門の先生確保がなかなか難しいところです。すべて最良な形にはできないでしょうけれども、そんなお話も問題がありましたらお伺いし、会議を作ったら代わりにこのような体制をとというようなお話も出来たらと思っております。

(こども福祉部次長)

今回、児童発達支援センターを設置するにあたりまして、これまで懸案としていなかった問題として、嘱託医のお医者様の配置というのがあります。年に数回健康診断を実施しまして、保護者の皆さんからのお話ですとかご相談ですとかを伺うことが出来ます。それから、子どもの健康状態も分かりますので、そういう意味では適切な治療やその子に見合

った医療機関のご紹介ができる取り組みになっています。

(E委員)

嘱託医との面談や相談など、お子様に特化された千歳市に関する専門機関への紹介などもしていただけるということでしょうか。

(こども福祉部長)

年に2回の健康診断で問診の際に機会があります。

(会長)

本当に機能して宙ぶらりんにならずやっていると良いですね。

(こども福祉部長)

補足説明ですが、第2期千歳市子ども・子育て支援事業計画(素案)の99ページを開いてください。政策の見直しなどを行っているのですが、星印などマークがあります。▲については、子ども・子育て会議の皆さんからいただいたご意見を参考にして施策に反映したものです。そのご意見についても、いただいたものを大事にとらえて盛り込んだ内容です。△は子育てママ応援会議の皆さんからいただいたご意見を参考に盛り込んだものです。★は主要施策です。140ある中で特に重要な施策として選んだのが22の★です。☆は新規指標です。具体的施策の中で▲のところは皆さんのご意見を参考にした施策であります。例えば、前回5年前の第1期の計画で盛り込んだあとに、この会議の審議において新たに施策として事業に盛り込んだものもあるのです。ですので、今後第2期計画ができますけれども、子ども・子育て会議の中で毎年、市が5段階評価をして進捗状況を報告し、ご意見いただきますが、その時にいただいた意見も拾って新規事業を立てたり、今の事業を見直してアレンジするというをやっていますし、これからも同様にやってまいります。参考例としては、前期の委員さんの中で、障がいがあるとか気になる子どもを療育の専門職が保育施設を訪問して観察する対象年齢が3歳以上だったんですね。この会議の中で3歳未満児の保育施設でも診てほしいというご意見いただいたのを受けて、2年前から実際にやっております。また、保育士の確保がこれまで何度も議論されていることから、保育士確保を今回は主要施策にレベルアップさせています。そういうことで皆さんからいただいたご意見は、私たちは尊重しております。第2期計画はこれで決まりますけれども、今後また5年間かけて施策を成熟させていきますので、その中でいろんなご意見いただいて調査研究し、できるものは反映させますので、モチベーションを下げる様で申し訳なかったんですけれども、忌憚のないご意見をいただいて考えていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

3 その他

【こども政策係長よりママから net.、こども大国ニッポンの作り方、応援宣言に関するクリアファイルについて説明】

(F委員)

ママから net. のアンケートを、できるのであれば全世帯の市内のママに配布してほしいんですけども、その方法は考えていますか。

(こども政策係長)

全世帯に配布してまた回収するというのは、予算的にも厳しいものがありますので書面でお願いしましたがけれども、SNS上や市ホームページ等いろんな手段で回収できるようにしておりますので何卒ご理解ください。

(F委員)

しかし、SNSのママから net. の Instagram やブログ更新は週1回じゃないですか。そうすると、目に行き届かないということが凄く多いかと思うのです。私も昨日、ちとせっこセンターに用事があったので行ったのですが、ママから net. を初めて知りましたし、冬休みの期間だと、児童館などを避ける傾向があります。私も幼稚園なども落ち着いたので顔を出しに行ったのですが、私みたいな人がたくさんいると思うので、SNSだけではなくても、いろんな方法で全世帯の子育て中のママ、パパたちが目に届くように耳に入るようにしたほうがこの結果は生かせるのではないかと思います。

(こども政策係長)

できる限り回収できるような形で実施したいと思うのですが、貴重なご意見としていただきたいと思います。

(G委員)

私からは、保育定員の拡大について、小規模の方から意見が上がっておりまして、もう決まっているのですけれど聞いていただければと思います。

今年度4月1日現在で定員割れしている施設が増えています。その情報の中で、再来年度保育定員を増員する話を、前回市役所から聞いております。小規模保育施設というのは、基本的に受け入れる人数が少なくなるとどんどん経営が悪化していくということが目に見えています。このような事態が発生しないよう、4月1日現在で、最低でもどこの施設も定員数満度の状態で配置していただきたいです。また、今回補助金を活用して保育施設の拡大をすると聞いたのですが、そういった中で、本当に必要なのかと疑問に思っている施設が結構ありました。あと、もうひとつは保育士の不足です。保育士がいなくて定員まで入れきれない施設がこれから出てくると思います。また、量の見込みというのを先ほど見させていただいたのですが、限定された保育施設だけを希望に書きたいという方も含めていくと、やっぱり施設側としても足りなくなる。しかし、人気のある施設だけしか入りたくないということになっていくと思うので、避けたほうが良いと思います。見込みを出すにも、国に示された基準でやっているとは思いますが、予定数よりも実数というのを一緒に見ていただきたいというのが第一でありました。経営の話をする、これからは、ひとりふたり欠けることで破たんするところが出てくると思います。また、保育士が足りないという事態を懸念しています。今回意見されてますので、こういう現状であるということを知っておいていただきたいです。

来年度の経営に関しても、定員割れの状態からスタートするのではないかということで、小規模施設は皆さん心配しています。実際に定員を割ってスタートするところが大半なんですということを伝えたくて時間を使わせていただきました。

(こども政策課長)

まず、小規模施設ですと0～2歳でございますので、4月の時点で満度になっているとなかなかその後の受け入れは難しいというのがあるのはご理解いただいているかと思います。そういう部分は、弾力化ということもありますけれども調整しながら考えていきたいと思っています。人数という部分は、どの辺りの年齢でとかを加味した形で募集していきます。あとは、新たな施設ですとかそういう考え方というものもありましたが、昨年保育定員の拡大をさせていただいた際も、募集に当たっては、既存施設の拡充ですとか既存施設を活用した部分をメインと考えておりますので、市としては新たな施設というのは難しいものと考えておりますので、まずは既存施設の拡充を主に考えてまいります。

(会長)

皆さんの疑問に答えられるような機会があると良いかもしれないですね。

(H委員)

今日の会議で思ったのは、行政として道筋をつけていかななくてはならないので、その中でやっていくことが決まっていくじゃないですか。それを今回の委員もそうですし、事業者としてもこれを伝えていかなければ広まらないということもわかると思います。ママから net. もそうですし、その他のいろいろな事業というのも自分たちがどんどん発信していかないと、せっかく考えたいものを周りが分からなければ、勝手に行政が考えたのかなとなってしまうから、伝達者みたいな感じで自分たち事業者としても伝える役目になっていかななくてはいけないのかなと思いました。

(I委員)

児童発達支援センターは、私も凄く期待しています。今も通園センターに通っている子どもたちがたくさんいて、通園の先生たちがお電話くださって様子を教えてくださいたり、こちらから様子を伝え合って過ごすことが出来ています。関わる関係機関がもっと多くなっているんな子どものことを知ることが出来たり、子どもたち家族と一緒に支えていけるのかなというところでは、きっと子どもたちも家族の方々も期待しているし、私たちも一緒に支えていけるのではないかなと先生たちもすごく期待していると思います。実際にやってみて振り返り合わなければならないところもあると思うんですけども、すごく期待しているのでその気持ちだけは伝えておきたいと思いました。

(J委員)

新参者で、1年目でいろいろ分からない中でみなさんのご意見を伺う中で、私は昭和の時代に産まれた人で、今度はその子どもが昭和59年に産まれて、そういう時代を経て子育てをしていたひとりとしては、今の時代はとて行政支援が多くて子育てが楽になる講演

がたくさんあって、入らなくても良いと思うようないろいろな情報が入ってきてしまう、キャッチしてしまう、それをまともに受けてしまう、そんな時代なんだなあと改めて思いました。この流れを避けられない、社会背景があり時代があるということなのでそこはやむを得ないんだなと思いつつお聞きしていました。ただ、委員の皆さんはやはり個人の意見があり、細部に渡るいろいろな要望はあるとは思いますが、行政はこんな風に変わっているんだよということもどこかで知らなければ、言ったことが全部叶うのが当たり前というような発想で参加するのはちょっと違うのかなと思いつつお聞きしていました。私は、保育教育関係の代表者として参加させていただき0～6歳の子どもたちを見ておりますが、その子たちが就学、青年期に向けてどんな大人になっていくかというのを視野に入れて保育を行っています。最近では、自己肯定感ですとかどんどん保育の質の中に入れてきて苦しくなる時があって、それを保育者にどう伝えたりとか、どう勉強させたりということを常にかんがえておりますが、その一方で、疲弊していく保育士がいて、保育者が全国的に需要に対して足りず追いついていないという人口配分をお聞きしていて、そんな中で自分たちが何ができるのかということ在必死に考えており、この会議で何かできないかということを考えております。感謝いたします。

(会長)

ほとんどが昭和ですね。今日は皆さまたくさん意見をいただきましてありがとうございます。こうやって聞いていく中で、千歳はやはり、子どもたちにも保護者の方にも優しい、そういうまちになっていくのではないかと思います。ありがとうございました。

3 閉会